

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(平成24年10月分)

ご協力ありがとうございました。平成24年10月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 162社 回答 153社 回答率 94.4%

| 調査項目 | 前 月 比 | | | | | | 前 年 同 月 比 | | | | | |
|------------------|--|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------|-----------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------|
| | 10%以上 増加・上 昇・好況 | やや 増加・上 昇・好況 | 横這い ・平常 | やや 減少・下 降・不況 | 10%以上 減少・下 降・不況 | 計 | 10%以上 増加・上 昇・好況 | やや 増加・上 昇・好況 | 横這い ・平常 | やや 減少・下 降・不況 | 10%以上 減少・下 降・不況 | 計 |
| 売上数量 | 35社 23.2% (11.1) | 47社 31.1% (19.0) | 45社 29.8% (35.9) | 14社 9.3% (26.1) | 10社 6.6% (7.8) | 151社 | 19社 13.0% (6.0) | 26社 17.8% (10.0) | 48社 32.9% (30.0) | 25社 17.1% (28.7) | 28社 19.2% (25.3) | 146社 |
| 売上高 | 36社 23.7% (8.4) | 45社 29.6% (25.3) | 45社 29.6% (31.2) | 17社 11.2% (27.9) | 9社 5.9% (7.1) | 152社 | 12社 8.2% (2.0) | 21社 14.3% (7.3) | 49社 33.3% (31.1) | 30社 20.4% (28.5) | 35社 23.8% (31.1) | 147社 |
| 在庫数量 | 5社 3.4% (5.4) | 20社 13.6% (14.1) | 78社 53.1% (55.0) | 35社 23.8% (22.1) | 9社 6.1% (3.4) | 147社 | 10社 7.0% (7.5) | 25社 17.6% (13.7) | 54社 38.0% (47.3) | 28社 19.7% (15.1) | 25社 17.6% (16.4) | 142社 |
| 販売単価 | 1社 0.7% (0.7) | 2社 1.4% (2.7) | 91社 61.5% (63.8) | 50社 33.8% (30.9) | 4社 2.7% (2.0) | 148社 | 2社 1.4% (1.4) | 2社 1.4% (4.1) | 45社 31.7% (28.1) | 56社 39.4% (41.8) | 37社 26.1% (24.7) | 142社 |
| 収益状況 (粗利) | 22社 14.7% (4.7) | 36社 24.0% (17.3) | 61社 40.7% (42.7) | 22社 14.7% (28.0) | 9社 6.0% (7.3) | 150社 | 12社 8.3% (4.7) | 15社 10.4% (8.1) | 50社 34.7% (30.9) | 41社 28.5% (34.9) | 26社 18.1% (21.5) | 144社 |
| 稼働率 (生産・加工設備) | 13社 10.7% (4.1) | 40社 32.8% (21.1) | 50社 41.0% (44.7) | 12社 9.8% (25.2) | 7社 5.7% (4.9) | 122社 | 9社 7.7% (2.5) | 22社 18.8% (7.6) | 44社 37.6% (40.3) | 26社 22.2% (28.6) | 16社 13.7% (21.0) | 117社 |
| 入出庫の トラック台数 | 14社 9.7% (2.7) | 36社 24.8% (15.1) | 72社 49.7% (50.7) | 17社 11.7% (26.0) | 6社 4.1% (5.5) | 145社 | 11社 7.8% (2.8) | 17社 12.1% (6.3) | 63社 44.7% (43.0) | 32社 22.7% (33.1) | 18社 12.8% (14.8) | 141社 |
| | 現在の景況感 | | | | | | 3ヶ月後の景況予測 | | | | | |
| | 2社 1.4% (0.7) | 13社 9.4% (5.0) | 45社 32.6% (36.2) | 48社 34.8% (34.8) | 30社 21.7% (23.4) | 138社 | 0社 0.0% (0.0) | 13社 9.6% (13.9) | 77社 57.0% (61.3) | 33社 24.4% (20.4) | 12社 8.9% (4.4) | 135社 |
| 特記事項 | 今月も各品種の〔特記事項〕が数多く寄せられましたので、別送にてお知らせいたします | | | | | | | | | | | |

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
 ②()内の数字は前月のパーセントです
 ③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は特記事項欄に別途記載いたします
 ④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
 事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(10月) 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 引合いは多少出て来ているが、マーケット価格は低迷している。太陽光関連は補助金制度による需要増であり、制度が打ち切られた時点で失速すると思われる。
- ② 秋需の時期であるが、一向に好転の兆しが見えてこない。内需減退の深刻さはリーマンショック後よりも厳しい様相となっている。産業界全体で需要減退による設備能力過多が顕著で、愁眉のデフレ減少改善には厳しい状況となっている。
- ③ 建築関連に動きが出て来ている。それ以外は殆ど横這いで変化なし。小企業の資金繰りの悪化が進行。厳重な注意が続く。
- ④ 国内消費の減少に歯止めが掛からず、今後厳しい展開が続くと思われる。
- ⑤ 自動車、建機は半減している。トラック部品は横這い。輸入材の安値売り込みが続いている。相場上昇の起爆剤が見当たらない。
- ⑥ 稼働日は、前月比3日増となったが、売上、出荷量ともに微増となり、比例減。輸出減少による生産計画の見直しが大きく、ネガティブな要員ばかりで、足元の状況から年内回復は難しそう。薄板三品の在庫も減っておらず、価格上昇は望めそうにない。東北三県内のインフラ関連、住宅の一部に賑わいが見られるが、職人不足が足を引っ張っている。福島県内は除染作業が本格化し、農閑期に入っても人工確保のため、人件費の底上げが目立ってきた。中国、韓国材も市場に一定のシェアを確保しており、価格上昇は見通せていない。日銀が資金供給を増やしても、デフレ脱却に結びつかず、やはり財政の出動と規制緩和を大胆に進めるべきだ。デフレは原因ではなく結果であり、需給ギャップの解消と需要創出が必要だ。

中板

- ① 10月は比較的順調な販売数量となったが、収益面では依然として厳しい状況が続く。需要減が続いており、先安感の懸念は拭えないが、現状の販売価格は死守していきたい。

厚板

- ① 下期首都圏の再開発の鉄骨物件が足踏み状態で発注タイミングが遅れていて、足元生産量が落ちている。なお、建産機は9月から減産に入りピークの50%になって来ている。
- ② 復興需要は土木に加え建設分野でも顕在化して来ている。

一般開金鋼

- ① 慢性的な職人不足で、現場がうまく回らない。職人の人件費が上がらず、若い人が違う職に動いている。非常に悪いスパイラルになっている。
- ② 前月比営業日数3日増と関係するが、建築、土木、設備ユーザーは押し並べて小口主体の工場操業に支障がない程度の仕事があり、予想外に善戦した8月から国内の景気の流れも変わり、年末年始にかけては注意深く前進したい。

正形鋼

- ① 10 月に出荷量は 9 月比で、稼働日数増加分以上に多かった。現状、需要の少ない中だが、10、11 月の荷が動く時期といえるだろう。在庫に歯抜けも散見され、9 月仕入れ分も在庫している中、販価上昇を目指しているが、厳しい状況が続いている。
- ② 市況に大きな変化はない。在庫は少し減少しているが、大きなインパクトを与えるほどには減っていない。メーカーの更なる減産が市況上昇には必要である。

異形棒鋼

- ① メーカー直送は、スクラップ安などから新規明細は様子見になっている。単価も少しずつ軟化している。市中倉出しは、例年の現場の動きと同じく、10 月は低位ながら本年一番の動きとなっている。単価は少し弱いが横場っている。
- ② 小口需要も指値が厳しくなってきた。需給、市況はメーカー姿勢を反映しており、メーカーは本気で対応し、頑張ってもらいたい。

平鋼

- ① 小口当用買い中心であるが、建築関連で中小物件が動いているように感じられる。東鉄が価格据え置きをしたが、先高感がなく、在庫補充の動きはない。現状、価格を維持しているが、一部厳しい指値もある。

鋼管

- ① 10 月は、売上、利益ともに昨年秋以降で一番良かった。電機、自動車、機械、造船は後退しているようなので、来年は厳しい年になると覚悟している。
- ② 10 月はやや上向くも、回復感はなく低調推移のままであり、今後もこの状況が続くと予想される。

構造用鋼

- ① 需要環境は自動車関連向けの減速に加え、建設機械、産業機械関連などが低迷している。更に国内製造業の生産拠点の海外移転が進んでいる中、現地調達化の流れが強まっており、今後更に不透明となっている。店売りについては、需要減速により荷動きが減少傾向となっている。市況については、荷動きが低調な動きとなっていることもあり、更に弱含みとなっている。
- ② 好調であった自動車、建機の関連も、ここに来て下方修正し、全体的に悪化している様子。更なる量、価格の落ち込みがあると深刻化しそうである。

その他

<曲げ加工>

- ① 10 月は 8 月、9 月から見れば、大きな物件が 2、3 増えたため、加工は全般的に増加に転じた。しかし、2、3 ヶ月先の見通しを見ると大きな見積り物件が見当たらず、先行き不透明。今後は一時的に良くなったからといって、予断は禁物である。

<金属表面処理加工>

- ① 10 月は物件物、紐付き材とも予定扱い数量が、前倒し案件等により 10% 増となるも、スポットの数量が減少。結果としては 7~8% 増となる。スポットの引合いが活発であり、橋梁、プラント関係の物件も 11 月は多く有ることから、年末にかけて高操業を維持できそうである。